１１．米沢（よねざわ）・福島街道（ふくしまかいどう）－板谷峠（いたやとうげごえ）越

選定箇所：大沢宿～板谷峠（山形県米沢市）※１～李平宿跡（福島県福島市）

概要：米沢・福島街道は、天文 18(1549)年伊達晴宗が父稙宗と争った天文　の乱後、居城を桑折西山城から米沢城に移してから本格的に開鑿された街道で、福島から米沢まで全長約 18km を結ぶ。天正年間に入って、伊達・信夫・安達の郡内を結ぶ軍事・経済・政治的に重要路として整備された。慶長３（1598）年上杉景勝による板谷峠の改修を経て、幕藩体制下では、米沢上杉藩の参勤交代などの公用路として、政治的な機能を果たす一方、藩の廻米、特産物を全国市場に送り出すための基幹道路として明治初年まで重視された。

米沢城下の大町札の辻に始まり、途中間の宿関根、大沢宿駅と板谷宿駅を通り、国境産ケ沢（うぶがさわ）までがその行程である。北は米沢街道と羽州街道につながり、東は福島街道につながる。ＪＲ奥羽本線と近距離にあり、関根駅・大沢駅・峠駅・板谷駅を利用して、今も街道を歩く人が見られる。

※１　通行は本街道の大部分を占める県道の冬期間一部通行止めの箇所があるものの可能である。ただし、国境産ケ沢の県境河川の橋がなくなった箇所は、増水期は通行ができないなど、産ケ沢付近は悪路で通行が困難である。

大旗と板谷宿の間の石畳